

画像符号化・映像メディア処理レター特集の発行にあたって



画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

委員長 齊藤 隆弘

本レター特集は、2007年に本論文誌に掲載されたものが第1回であり、今回が第5回となる。本レター特集は、本学会画像工学研究専門委員会の主催で毎年秋に開催されている画像符号化シンポジウム (PCSJ)・映像メディア処理シンポジウム (IMPS) と連動させた企画である。PCSJ・IMPSでは、四半世紀にわたり、最新アイデアや研究成果が発表され、熱心に討議され、これらの分野の研究開発の進展に寄与してきた。PCSJ・IMPSでの重要な話題を、本学会の会員諸兄に早くお伝えすることを趣旨とし、前年秋に開催された直近のシンポジウムで発表された研究成果を、その討議を踏まえて発展させたもの、並びに画像符号化・映像メディア処理に関連したその他の研究を主題とした特集を企画してきた。特に、速報性を重視し、レター特集としている。今回は例年とは異なり、直近の第25回PCSJと第15回IMPSが、2010年12月に名古屋で開催された28th Picture Coding Symposiumの前日に同一会場にてWorkshop on Picture Coding & Image Processing (WPCIP) として開催され、国内外の研究者より多数の研究発表が行われたが、このWorkshopと連動した企画となっている。

第1回以降の採録件数(投稿件数)の推移は、第1回28件(50件)、第2回36件(49件)、第3回20件(31件)、第4回25件(35件)であり、今回は19件の投稿があり(うち11件がWPCIPでの発表)、そのうち17件が採録となった。採録論文の内容を精査すると、(1)画像処理や復元のための新手法の提案、(2)実用的な動画画像符号化技術の開発、(3)三次元画像の処理や応用に関する研究の深化、(4)新しい画像応用分野の開拓などの傾向が読み取れ、これらの方向の研究が活性化することが期待される。

最後に、貴重な研究成果を投稿して頂いた方々、本編集委員、査読委員、本企画をサポートして頂いた和文論文誌D編集委員の関係各位に感謝の意を表す。また、本レター特集が、会員諸兄に有益なものであれば、幸いである。

さいとう たかひろ
齊藤 隆弘(正員) 昭51東大・工・電気卒。昭56同大大学院博士課程了。工博。同年神奈川大・工・専任講師。平3同教授、現在に至る。画像入力、信号処理、画像処理、画像符号化など画像工学に関する研究に従事。

画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

| | |
|-----|-------------------------|
| 委員長 | 齊藤 隆弘 |
| 幹事 | 井口 和久・坂東 幸浩 |
| 委員 | 加藤 嘉明・川田 亮一・久保田 彰・境田 慎一 |
| | 高橋 桂太・筒口 拳・内藤 整・浜本 隆之 |
| | 藤井 俊彰・八島 由幸 |